

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1 学年	国語	現代の国語		必履修・必修・選択	2
科目の 目 標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	・新編 現代の国語 (大修館)	副教材 (出版社)	・セレクト漢字検定5級～2級 確認と演習 三訂新版 (桐原書店)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	
ワークシート		◎	○
学習観察			◎

3 履修上および学習上の注意

・読書をこころがけ、積極的に文学作品に触れるようにしてください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	オリエンテーション （使用教材、成績の付き方） （Chromebook の使い方）	1	【知】相手に伝わる話し方や聞き方の基本を理解している。 【思】
	○話し方・聞き方の基本 「伝わるように話そう」 「聞きとりのレッスン」	話聞 4	【主】ノートやメモをとるなどして、理解しようとしている。
5	○自分の考えを深めながら話合う 「『変わる』ことを楽しもう」 「コミュニケーションは技術だ」 考えを深めるために話し合う	話聞 5	【知】相手に理解してもらったり、自分が理解したりするためにはどのような工夫をして話し合い活動をすればよいか理解している。 【思】相手に理解してもらうための表現の工夫をこらし、相手の意見を聞き、自分の考えを深めることができています。 【主】個人活動を元にしてグループ活動に参加している。
	○物事をわかりやすく説明する 「絵や写真を説明しよう」 「料理レシピを書こう」	書 2	【知】わかりやすい説明に必要な書き方を理解している。 【思】
6	説明の基礎を理解する		【主】ノートやメモをとるなどして、理解しようとしている。
	○論理的に説明する① 「オカピの胃袋はいくつか」	書 7	【知】具体例を使った根拠の示し方を理解している。 【思】意見文を書くときに、効果的な具体例を示しながら書いている。 【主】積極的に意見文を書いている。
7	具体例を提示して意見文を書く		【知】対比を使った根拠の示し方を理解している。 【思】意見文を書くときに、効果的な対比表現を使用している。 【主】積極的に意見文を書いている。
	○論理的に説明する② 「水の東西」	書 7	
8	対比を根拠に意見文を書く		【知】筆者の主張や根拠の見つけ方を理解している。 【思】「生きることと食べることの意味」論旨と要点をとらえている。 【主】積極的に論旨と要点をとらえる活動をしている。
9	○筆者の主張と根拠をとらえる 「生きることと食べることの意味」	読 6	
10	【前期期末考査】	1	【知】討論の仕方を理解している。 【思】相手の反応を予測しつつ、自分の考えが的確に伝わるように話している。 【主】相手の反応を予想しながら討論に参加している。
	○討論をしてみよう 「羅生門」※教科書外作品 下人の善悪について討論	話聞 10	
11	○効果的な言葉を使おう 「本のポップを作ろう」	書 6	【知】相手に意図した効果を与えることができる言葉遣いしている。 【主】ポップ作成に積極的に取り組んでいる。
12	※推敲の仕方を押さえよう		【知】構成を元に論旨や要点をとらえている。 【思】「何のために働くのか」の構成をとらえ、論旨や要点をとらえている。 【主】積極的に要約活動に取り組んでいる。
1	○文章の要点を的確に捉える 「何のために働くのか」 要約を通して	読 6	
3	○相手にわかりやすい伝え方について考える 「レポートを書こう」 自分が将来就きたい職業の情報	書 8	【知】図的な情報の効果を理解している。 【思】文章と図を組み合わせて、相手を意識したわかりやすいレポートを作成している。 【主】積極的にレポート作成に取り組んでいる。
	【後期期末考査】	1	【知】相手の情報を聞き出す方法を理解する。聴き手が聞きやすい話し方を理解している。 【思】効果的な情報収集、スピーチの仕方について理解を深めている。 【主】積極的に情報収集をしている。効果的なスピーチをしようとしている。
	○必要な情報を聞きだそう 印象に残るスピーチをしよう 「他己紹介」	話聞 6	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1 学年	国語	言語文化	-	必履修・必修・選択	2
科目の 目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	新編 言語文化 (大修館)	副教材 (出版社)			
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	
グループ活動・発表		◎	◎
学習観察			◎

3 履修上および学習上の注意

読書をこころがけ、積極的に文学作品に触れるようにしてください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	オリエンテーション （使用教材、成績の付き方） （Chromebook の使い方）	1	
	○登場人物の心情変化を理解する 「水かまきり」 「どんかつ」※場合により省略	近 5	【知】 心情理解の上でどのような描写に注目すればよいか理解している。 【思】 書く登場人物の心情を想像し、変化をとらえている。 【主】 言語活動を通して登場人物の心境や変化を理解しようとしている。
5	○古文のリズムを感じる 古文の基礎【仮名遣、品詞、活用】 「いろはうた」「古文冒頭選」 「児のそら寝」	古 5	【知】 歴史的仮名遣、品詞、活用を身につけている。 【思】 現代文を読んだときとの印象の違いを考えることができる。 【主】 ワークシート等で繰り返し練習して、古文の基礎知識を定着させようとし、独特のリズムを楽しもうとしている。
6	○漢文の基礎 【構造、訓読のきまり、書下】 「訓読のきまり」「格言」 「守株」（余裕があれば「蛇足」）	漢 6	【知】 漢文の構造を理解し、訓読のきまりを身につけている。 【思】 文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉えている。 【主】 ワークシート等を繰り返し練習して、漢文の構造を理解し、訓読のきまりを定着させようとしている。
7	○自分がよいと思うものを紹介 「枕草子」春はあけぼの 「季節のことばと出会う」 自分の好きなものを紹介する文章を 書いてみよう	書 8	【知】 随筆というジャンルの特徴を理解している。 【思】 自分の好きなものをどう表現すればより相手に同じ印象を持ってもらえるか工夫を凝らしている。 【主】 より自分の好きなもののよいところが伝わる文章をつくろうとしている。
8	○近代文学に触れる 「夢十夜」第一夜	近 5	【知】 夏目漱石に関する知識を身につけている。 【思】 「夢十夜」の特徴について考え、その効果の理解を深めている。 【主】 言語活動を通して作品の特徴の理解やその効果について意見交換をしている。
9	【前期期末考査】	1	
10	○古文と近代の比較① 「羅生門」 「今昔物語集巻第二九第一八」	古 9	【知】 古文と近代の文章で共通している部分を理解している。 【思】 現代の文章の特徴をとらえ、その効果について理解を深めている。 【主】 ワークシート等で二つの文章の違いを考え、特徴を捉えようとしている。
11	○故事成語に親しむ 「借虎威」 （余裕があれば「五十歩百歩」）	漢 6	【知】 故事成語の意味を理解している。 【思】 故事成語の成り立ちについて考えることができる。 【主】 「借虎威」の成り立ちを理解しようとしている。
	○詩歌から筆者の思いを想像する 「詩歌の調べ」	古 6	【知】 詩歌の表現技法を理解している。 【思】 詩歌から筆者のどんな感性が表れているか考えている。 【主】 グループ活動を通して筆者の感性について話し合っている。
12	○日本の文化の特徴を考える 「足し算の文化」	近 5	【知】 評論文の特徴を理解している。 【思】 日本の文化の特徴を本文中からまとめることができる。 【主】 言語活動を通して筆者の意見の理解を深めようとしている。
1	○古典の物語を楽しむ 「伊勢物語」芥川	古 5	【知】 伊勢物語に関する基礎知識について理解している。 【思】 古文の恋愛観について理解を深めている。 【主】 言語活動を通して藤原業平の気持ちを理解しようとしている。
2	○自分の好きなジャンル探し 「一瞬の風になれ」 【学年末考査】	近 5 1	【知】 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思】 自分が好きなジャンルや作品について理解を深めている。 【主】 自分の好きなジャンルや作品について理解を深めようとしている。
3	○ポップを作ってみよう 前単元で考えたジャンルを元に、 一冊のお気に入りのポップを作成	書 2	【知】 自分の思いが効果的に伝わるよう、文章の構成や、文体、描写、語句などの表現のしかたを工夫している。 【思】 自分の好きな小説をどうすれば効率よく人に伝えることができるか、考えることができる。 【主】 自分なりの工夫を凝らしながらポップを作ろうとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1 学年	公民	公共	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>①知識及び技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>				
教科書 (出版社)	・公共 これからの社会について考える (数研出版)	副教材 (出版社)	高等学校 公共 -これからの社会について考える- 整理ノート		
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	現代の諸課題を捉え概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を他季節かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて事実を元に多面的・多角的に考察・判断・議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者としてよりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	○	
ワークシート		○	◎	○
学習観察			○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・「公共」は倫理、政治、経済、国際社会に分けられており、2～3年次の選択科目である「倫理」「政治・経済」の基礎となる科目です。 ・「18歳で成人」となる皆さんは、高校生になったのをきっかけに、世の中の動きをニュースなどで把握したり、各国の文化や考え方の違いを理解し、社会の一員となる準備をしましょう。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 公共的な空間をつくる 私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	7	【知】 青年期の意義、思想や三大宗教の内容が理解できている。 【思】 自己形成の課題について考察できている。思想や宗教、文化や伝統が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。 【主】 社会の一員としての自覚を深め、自己実現がめざせている。先哲の思想や生き方、日本の伝統思想や文化、外来思想から自分自身の生き方を検証し、主体的に追究できている。
5	第2章 公共的な空間における 人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	9	【知】 近世・近現代の思想内容、地球環境問題や資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 【思】 先人の生き方を通して、公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。 【主】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。
6	第3章 公共的な空間における 基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	7	【知】 法などの社会規範の役割、民主政治のあゆみ、日本国憲法の三大原理の内容、日本国憲法で保障されている権利が理解できている。 【思】 民主政治における国家と個人のあり方、日本国憲法における権利の保障と、他者の権利や公共の利益との調和について考察できている。日本の平和主義のあり方の変化について考察できている。 【主】 民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。
7	第4章 現代の民主政治と 政治参加の意義 第1節 日本の政治機構	8	【知】 三権相互の関係と役割、行政機能が拡大している現状、選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題が理解できている。 【思】 行政機能拡大の是非、日本政治の課題と今後の見通し、地方自治の現状と身近な地域で行われている事例について考察できている。 【主】 裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。身近に自らが参加できる機会を発見し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。
8	第2節 民主参加と民主政治の 課題	8	
9	【前期期末考査】	1	【知】 企業や政府の役割、市場メカニズム、各種経済指標、金融・財政のしくみ、戦後日本経済のあゆみが理解できている。産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状、契約の原則、労働問題や社会保障について理解できている。 【思】 現代の資本主義経済と市場メカニズム、GDPと豊かさとのつながり、景気の先行きと経済の動向について考察・判断できている。労働問題や社会保障について課題を発見し、解決の方法を考察できている。 【主】 経済社会に主体的に生きる一員として、新聞などで情報を集め、現状と今後の日本経済について見通しがたてられている。労働問題や社会保障の課題について主体的に追究できている。
10	第5章 現代の経済社会と 経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化	18	
11	第4節 豊かな生活と福祉の実現	18	
12	第6章 国際社会の動向と 日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の 役割 第3節 国際経済の動向と国際 協力	14	
	【後期期末考査】	1	【知】 国連など国際機関の現状と課題、国際社会の諸問題について考察・判断できている。貿易や為替相場の変動、地域経済統合が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。 【主】 国際政治や国際経済の課題、平和と安全を維持するため何が有効なのか、グローバル化した国際経済について主体的に追究できている。持続可能な社会のあり方について主体的に追究できている。
3	持続可能な社会づくりの主体となる 私たち	5	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1年次	数学	数学Ⅰ	-	必修・必修・選択	3
科目の目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書(出版社)	最新 数学Ⅰ (数研出版)	副教材(出版社)	書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用 パラレルノート数学Ⅰ (数研出版)		
留意点	特になし			開講 予定人数	必修のため全員

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

・「新課程 書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用パラレルノート数学Ⅰ」を、授業や家庭学習で活用する。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 数と式	18	【知】数の体系を実数まで拡張する意味を理解したり、数の概念に対する理解を深めることができる。 【思】式を、目的に応じて一つの文字に着目して整理したり、一つの文字に置き換えるなど、複雑な式を簡単な式に帰着させ、式の見方を豊かにすることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
5			
	第2章 集合と命題		【知】集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に使うことができる。 【思】事象を論理的に表現する際の基礎となる知識や技能を身に付けた上で、色々な事象や数学の概念を多面的に見たり統合的に見たりすることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
6	【前期中間考査】	1	
	第3章 2次関数	24	【知】関数の概念の理解を深め、関数を用いて数量の変化を表現する事の有用性を認識することができる。 【思】2次関数の値の変化を考察することを通じて、関数の最大値・最小値や2次不等式の解を求めることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
7			
8			
9	【前期期末考査】	1	
	第3章 2次関数	12	
10	第4章 図形と計量	20	【知】鋭角での三角比の意味と相互関係について理解したり、鈍角まで拡張する意味と鋭角との関係を理解することができる。 【思】三角比や正弦定理、余弦定理を用いて、平面図形や簡単な空間図形の計量に活用することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
11			
	【後期中間考査】	1	
12	第4章 図形と計量	13	
	第5章 データの分析	8	【知】目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択し分析を行い、データの傾向や特徴を理解することができる。 【思】主張の妥当性について、実験などを通して得たデータを整理して判断したり、批判的に考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
1			
2			
	【後期期末考査】	1	
3	第5章 データの分析	6	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1学年	理科	科学と人間生活	-	必履修	2
科目の 目標	<p>知識及び技能 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。</p> <p>思考、判断、表現 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>				
教科書 (出版社)	科学と人間生活 (実教出版)	副教材 (出版社)	アクセスノート 科学と人間生活 (実教出版)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけられたか。
思考・判断・表現	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養えたか。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高められたか。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	○	○
ワークシート		◎	○	○
学習観察		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

理科4分野（物理・化学・生物・地学）すべてを学習します。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1章 科学と技術の発展	4	【知】 科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。 【思】 科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現している。 【主】 科学技術の発展に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
5	2章 物質の科学 1節 材料とその再利用	5	【知】 物質の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】 物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】 物質の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
6	【前期中間考査】	1	
7	3章 生命の科学 1節 生物と光	6	【知】 生命の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】 生命の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】 生命の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
8	2節 微生物とその利用	6	
9	【前期期末考査】	1	
10	4章 光の性質とその利用 1節 光の性質とその利用	6	【知】 光や熱の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】 光や熱の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】 光や熱の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
11	2節 熱の性質とその利用	8	
12	【後期中間考査】	1	
1	5章 宇宙や地球の科学 1節 身近な天体と太陽系における地球	7	【知】 宇宙や地球の科学について認識を深めているとともに、それらの観察実験などに関する技能を身につけている。 【思】 宇宙や地球の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。 【主】 宇宙や地球の科学に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
2	2節 身近な自然景観と自然災害	6	
	【後期期末考査】	1	
3	6章 これからの科学と人間生活	5	【知】 これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めている。 【思】 これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察している。 【主】 これからの科学と人間生活に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1学年	保健体育	体育		必履修・必修・選択	3
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。				
教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材(出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識及び技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考力・判断力・表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
学びに向かう力・人間性等	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

(2) 評価方法

観 点	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実技テスト・ゲーム	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。 ・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。 ・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと ・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。 ・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	1	<p>【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上を目指す</p> <p>【思】下記※1 参照</p> <p>【学】下記※2 参照、話し合いに貢献しようとしている</p>
	1 「体づくり運動」	8	<p>し、取り組むことができる</p> <p>【思】下記※1 参照</p> <p>【学】下記※2 参照、話し合いに貢献しようとしている</p>
	2 「体育理論」	3	<p>【知】スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について理解している</p> <p>【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている</p> <p>【学】自主的に学習に取り組んでいる</p>
5	3 「器械運動（マット運動）」 「陸上競技（走・投）」	14	<p>【知】基本的な技や発展技を滑らかに安定して行うとともに、それらを構成し演技することができる</p> <p>【思】下記※1 参照</p> <p>【学】下記※2 参照、よい演技を講えようとしている</p>
6	4 「球技<ネット型>（バレーボール）」 「器械運動（マット運動）」	14	<p>【知】記録の向上や競争の楽しさ・喜びを味わい、技術の行い方や体力の高め方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けている</p> <p>【思】下記※1 参照</p> <p>【学】下記※2 参照、ルール・マナーを大切にしている</p>
7			<p>【知】安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などの攻防をすることができる</p> <p>【思】下記※1 参照（特に攻防について）</p> <p>【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている</p>
8	5 「陸上競技（走・投）」 「球技<ネット型>（バレーボール）」	14	<p>【知】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる</p> <p>【思】下記※1 参照（特に攻防について）</p> <p>【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている</p>
9			<p>【知】安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる</p> <p>【思】下記※1 参照（特に攻防について）</p> <p>【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている</p>
10	6 「領域内選択（球技）」 ・<ゴール型>サッカー ・<ネット型>ソフトテニス ・<バレーボール型>ソフトボール	12	<p>【知】相手の動きの変化に応じた基本動作や基本技・連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる</p> <p>【思】下記※1 参照（特に攻防について）</p> <p>【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている</p>
11	7 「武道（柔道）」 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」	12	<p>【知】ダンスの楽しさや喜びを味わい、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現を通じた交流や発表をすることができる</p> <p>【思】下記※1 参照（特に表現について）</p> <p>【学】下記※2 参照、作品や発表などの話し合いに貢献している</p>
12	8 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」 「ダンス」	12	<p>【知】技能の向上の楽しさ・喜びを味わうとともに、安定したスキー操作を実践することができる</p> <p>【思】下記※1 参照</p> <p>【学】下記※2 参照、スキー場のルール・マナーを大切にしている</p>
1	9 「体育理論」	3	<p>※1 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる</p> <p>※2 自主的に取り組んでいる、互いに助け合い教え合おうとしている、一人一人の違いに応じた動きや課題、挑戦などを大切にしている、健康・安全を確保している</p>
2	10 「スキー」	12	
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1 学年	保健体育	保健		必履修・必修・選択	1
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。				
教科書 (出版社)	現代高等保健体育 (大修館書店)	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けているか。
思考力・判断力・ 表現力等	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けているか。
学びに向かう力・ 人間性等	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けているか。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
定期考査・小テスト	○	○	
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。 1単位科目のため欠課時数に留意すること。 授業で使用する教材は教科書のみであるため、教科担任から配布される教材の保管について留意すること。 教科書は1、2年次の保健のみならず、1～3年次体育の「体育理論」時にも使用するため、紛失しないように管理すること。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	1	「健康の考え方」 【知】国民の健康課題や健康の考え方が変わってきていること、健康は主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している
	【現代社会と健康】 01「健康の考え方と成り立ち」 02「私たちの健康のすがた」	2	
5	03「生活習慣病の予防と回復」 04「がんの原因と予防」 05「がんの治療と回復」	4	【思】現代社会と健康における情報や事象について、整理したり個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している 【学】※1参照 「現代の感染症とその予防」 【知】感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられること、その予防には個人の取組及び社会的な対策が必要であること、を理解している
6	06「運動と健康」 07「食事と健康」 08「休養・睡眠と健康」	4	【思】感染症の発生や流行には違いがみられることについて整理し、感染のリスク軽減のための個人の取組及び社会的な対策に応用している 【学】※1参照
7	09「喫煙と健康」 10「飲酒と健康」 11「薬物乱用と健康」	4	「生活習慣病などの予防と回復」 【知】健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、調和の取れた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること、を理解している 【思】自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスク軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している 【学】※1参照
8	【前期期末考査】	1	
9	12「精神疾患の特徴」 13「精神疾患の予防」 14「精神疾患からの回復」	4	「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」 【知】喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因になること、薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えること、それらの対策には個人や社会環境への対策が必要であること、を理解している 【思】我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している 【学】※1参照
10	15「現代の感染症」 16「感染症の予防」 17「性感染症・エイズとその予防」	4	「精神疾患の予防と回復」 【知】精神疾患の予防と回復には、調和のとれた生活を実践すること及び心身の不調に気付くことが重要であること、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であること、を理解している 【思】習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している 【学】※1参照
11	18「健康に関する意思決定・行動選択」 19「健康に関する環境づくり」	2	
	【安全な社会生活】		
12	01「事故の現状と発生要因」 02「安全な社会の形成」 03「交通における安全」	4	「安全な社会づくり」 【知】環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること、交通事故の防止には車両の特性の理解・適切な行動・自他の生命を尊重する態度・交通環境の整備が関わることを理解している 【思】様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している 【学】※1参照
1			
2			「応急手当」 【知】適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には正しい手順があること、応急手当は速やかに行う必要があること、を理解し、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができる 【思】習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾患に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している 【学】※1参照
	【後期期末考査】	1	
3	04「応急手当の意義とその基本」 05「日常的な応急手当」 06「心肺蘇生法」	4	
			※1 自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1 学年	英語	英語コミュニケーション I	-	必修・必修・選択	3
科目の 目 標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと ア 日常的及び社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと ア 日常的及び社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表] ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>				
教科書 (出版社)	All Aboard! English Communication I (東京書籍)	副教材 (出版社)	クラウン チャンクで英単語 Basic (三省堂) 高校英語へのステップ (東京書籍)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的かつ自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取 り 組 む 態 度
評価方法			
定期考査・小テスト リスニングテスト 等	◎	○	○
定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等	○	◎	○
学習観察・提出物 授業や課題への取り組み	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	1	（使用教材や授業の進め方） （知）アルファベットについて、その決まり事を理解している。また書くことができる技能を身につけている。 （思）教室で使う表現について理解している。 （主）教室で使う表現について適切に使っている。 （主）教室で使う表現について適切に使おうとしている。
	Warm-up 1 アルファベット	1	
	Warm-up 2 教室で使う表現	3	
	Warm-up 3 辞書の使い方	3	
	Communication 1	3	
5	英文のしくみ1・Pre-Lesson 1	6	（知）自己紹介を英語でできる。 （思）自己紹介で表現力を見せる。 （主）相手が理解しやすいように自己紹介ができる。 （知）自分のことを be 動詞を用いて表現できる。 （思）自分のことを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分のことを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	Pre-Lesson 2	3	
	Lesson 1	3	
	【前期中間考査】	1	
	Lesson 2	7	
6	文法のまとめ1	1	（知）動詞の過去形の用法を理解している。 （思）好きな食べ物について、相手の意見、自分の考えを伝える。 （主）好きな食べ物について、自分の考えを伝えようとしている。
	Let' s Listen 1	1	
7	Lesson 3	10	（知）進行形の文の用法を理解している。 （思）好きな動物について、考えを表現できる。 （主）好きな動物についての考えを表現しようとしている。
	Communication 2	3	
8	【前期期末考査】	1	（知）助動詞を用いた文の用法を理解している。 （思）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 （主）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。
	Lesson 4	8	
9	英文Eメールの書き方	3	（知）to 不定詞を用いた文の用法を理解している。 （思）行ってみたい所、行ってみたいことを表現できる。 （主）行ってみたい所、行ってみたいことを表現しようとしている。
	Extra Target 1	9	
10	Lesson 5	9	（知）動名詞を用いた文の用法を理解している。 （思）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 （主）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。
	Let' s Listen 2	6	
11	英文のしくみ2・文法のまとめ2	6	（知）動名詞を用いた文の用法を理解している。 （思）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 （主）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。
	Reading 1	9	
12	Extra Target 2	9	（知）受け身を用いた文の用法を理解している。 （思）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 （主）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。
	【後期中間考査】	1	
1	Lesson 6	9	（知）比較級を用いた文の用法を理解している。 （思）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 （主）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。
	Lesson 7	8	
2	Lesson 7	8	（知）比較級を用いた文の用法を理解している。 （思）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 （主）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。
	Lesson 7	8	
3	【後期期末考査】	1	（知）現在完了形を用いた文の用法を理解している。 （思）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。 （主）相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとしている。
	Lesson 8	8	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1 学年	工業	工業技術基礎	-	必修・ 必修 ・選択	3
科目の目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	工業技術基礎 (実教出版)	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術が身についている。
思考・判断・表現	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力が身についている。
主体的に学習に取り組む態度	工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
レポート・日報		○	○	
課題や授業への取組		○	○	○
課題等の提出状況				○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・実習機器の取扱い ・安全作業の徹底（整理整頓、身だしなみ）

4-1 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）【電気分野】

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	3	
	○直流電圧計・電流計の使い方	3	【知】 各計測器の取扱いについて理解している。 【思】 各計測器に記される記号から測定器の使用方法を判断できる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
5	○オームの法則の実験	3	【知】 オームの法則を用いて電圧、電流、抵抗をそれぞれ求めることができる。 【思】 実験結果やグラフより電圧、電流、抵抗の各関係性を見いだすことができる。 【主】 実験に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
6	○抵抗の直並列接続の実験	3	【知】 直並列回路の合成抵抗や回路の電流、電圧を求めることができる。 【思】 直並列回路の分圧、分流について理解し、説明することができる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
	○テストの製作	3	【知】 半田付け作業を安全且つ正確に行うことができる。 【思】 抵抗のカラーコードを理解するとともに抵抗の役割を理解している。 【主】 テスタ製作に主体的に取組もうとしている。
7	○ホイートストンブリッジによる抵抗の測定	3	【知】 ホイートストンブリッジの取扱いを理解し、抵抗値を測定できる。 【思】 ホイートストンブリッジの原理について説明することができる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
	○キルヒホッフの法則の実験	3	【知】 キルヒホッフの第一法則、第二法則を用いて、電流、電圧を求めることができる。 【思】 計算値と理論値について理解し、説明することができる。 【主】 実験に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
8	○テストの使い方	3	【知】 テスタの取扱いについて理解している。 【思】 測定誤差について理解し説明することができる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
9	○電気工事Ⅰ	3	【知】 電気工事の単位作業ができる。 【思】 単線図より複線図を作図することができる。 【主】 実習に主体的に取組もうとしている。
	○論理回路Ⅰ	3	【知】 真理値表や論理式を理解し、実習盤に結線することができる。 【思】 真理値表から論理式やタイムチャートを作図することができる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
10	○電圧計・電流計の内部抵抗の測定	3	【知】 電圧計・電流計の内部抵抗を測定できる。 【思】 内部抵抗を理解し、電圧、電流、抵抗の関係性を見いだすことができる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
11		39	
12	○第二種電気工事士試験対策		【知】 電気工事に関する基本的な知識を習得している。 【思】 電気工事の特徴を踏まえ、適切な施工や工具の選択ができる。 【主】 工事士試験対策授業に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
1			
2			
3			

4-2 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）【建築分野】

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	3	
5	○線の練習	6	【知】製図用具の種類や基本的な使い方を理解し、正確で美しい線を表すことに意欲的に取り組む知識・技能を身につけている。 【思】製図の基本である線と文字の表し方や描き方について適切に思考・判断し、正確で美しい線や文字の表現方法を身につけている。 【主】製図の基本である線と文字の表し方や描き方について興味・関心をもち、意欲的に取り組む態度を身につけている。
6	○模型製作（住吉の長屋）	15	【知】建築家安藤忠雄の住吉の長屋を例に、建築における模型製作の基本を学び、道具の扱い方や模型組立の技術を身に付けている。 【思】部材の取り付け位置や組み合わせ方の工夫について思考・判断し、効率よく正確な模型をつくることことができる。 【主】主体的に住宅建築に関する基礎的な技術に関心を持ち、模型製作に意欲的に取り組む態度を身につけている。
7			
8			
9	○構造模型製作	9	
10			【知】合理的な橋梁設計の基礎的な知識と技能を身につけ、荷重実験を通してトラス構造の原理を理解している。 【思】部材の取り付け位置や組み合わせ方の工夫について思考・判断し、構造部材の役割を模型製作を通して表現することができる。 【主】主体的に模型製作に取り組み、構造上安全で合理的な部材の組み合わせをくふうする実践的な態度を身につけている。
11	○建築製図（土台）	12	
12	○建築製図（配置図）	12	【知】図面内容を正確かつ効率的に要領よくまとめ、それぞれの図面の描き方の手順を習得し、正しい線の使い方によりきれいに描きあげる実践的な知識・技能を身につけている。 【思】図面内容を正確かつ効率的に要領よくまとめ、それぞれの図面のかき方の手順に常に思考・判断し、正しい線の使い方によりきれいに描きあげる実践的な行動力を身につけている。 【主】図面内容を正確かつ効率的に要領よくまとめ、それぞれの図面のかき方の手順に興味・関心をもち、正しい線の使い方によりきれいに描きあげる取り組み態度が身につけている。
1			
2	○建築製図（平面図）	15	
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1学年	電気	電気回路	-	必履修・ 必修 ・選択	3
科目の 目 標	<p>①知識及び技術 電気回路についての電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	わかりやすい電気回路 (コロナ社)	副教材 (出版社)			
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技術	電気回路についての電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	
ワークシート	◎	◎	○
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 電気回路の要素		
	1. 電気回路の電流・電圧・抵抗	10	【知】電流・電圧・電気抵抗における計算方法について理解している。 【思】電流・電圧・電気抵抗の関係を理解している。 【主】電流・電圧・電気抵抗などの考え方に興味をもち、主体的かつ協働的に取組もうとしている。
5	2. 電気抵抗	7	【知】断面積、長さ、抵抗率を用いて、導線の抵抗値を計算できる。 抵抗温度計数を用いて、導線の抵抗値を計算できる。 【思】抵抗値の変化が電気回路に与える影響について理解ができる。 【主】導体の材質や形状、温度により、抵抗値が異なることに興味をもち、主体的かつ協働的に取組もうとしている。
6	【前期中間考査】	1	
	第2章 直流回路		
7	1. 直流回路の計算	20	【知】直流回路における計算方法について理解している。 【思】直流回路における適切な公式・法則を選択できる。 【主】直流回路が社会で活用されている場面に関心をもち、主体的かつ協働的に学ぼうとしている。
8	2. 消費電力と発熱量	6	【知】電力と熱の関係性について理解している。 電力量とジュール熱の変換ができる。 【思】電気回路の安全性について理解し、状況に応じた判断ができる。 【主】電流が熱を発生する現象に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。
	3. 電気の各種作用	8	【知】一次電池、二次電池の違い、用途を理解している。 【思】目的に合致した電池を選別できる。 ファラデーの法則、熱電効果について理解している。 【主】電流の化学作用や各種電池の原理に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。
9	【前期期末考査】	1	
	第4章 電流と磁気		
10	1. 磁気	8	【知】磁気を理解し、計算方法について理解している。 【思】磁気を理解し、種々の課題解決に応用できる。 【主】磁気現象の利用に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。
11	2. 電流の磁気作用	10	【知】電流と磁界の関係を理解し、計算方法について理解している。 【思】電流と磁気を理解し、適切な公式・法則を選択できる。 【主】ヒステリシス現象に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。
	【後期中間考査】	1	
12	3. 磁界中の電流に働く力	12	【知】電流と磁界中の導体に働く力の大きさの関係を理解し、適切な公式・法則を選択できるとともに、計算できる。 【思】導体と磁界の位置関係による導体に働く力への影響を理解できる。 【主】電磁力の活用に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。
1	4. 電磁誘導作用	20	【知】起電力およびインダクタンスの関係を理解し、適切な公式・法則を選択できるとともに、計算できる。 【思】起電力の大きさ、向き、インダクタンスについて理解し、表出することができる。 【主】電磁誘導作用の活用に関心をもち、意欲的に学ぼうとしている。
2			
3			
	【学年末考査】	1	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1学年	電気	工業情報数理	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>①知識及び技術 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の論理を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	工業情報数理 (実教出版)	副教材 (出版社)	情報技術検定問題集 2・3級C言語 (実教出版)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技術	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の論理を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	
ワークシート	◎	◎	○
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4 5	10章 数値処理 検定へ向けての実践問題	5 6	【知】数値や単位の組合せを理解し、卓上電子計算機を用いて数値を求めることができる。 【思】量の名称・量記号・単位(SI)について説明できる。 【主】量の名称・量記号・単位(SI)について関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 検定試験合格に向け主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	【前期中間考査】	1	
6 7	6章 ハードウェア 7章 コンピュータネットワーク	8 2	【知】2進数と16進数を理解し、四則演算や変換・計算ができる。論理回路の機能を理解し利用する知識が身に付いている。コンピュータの構成や動作原理、ネットワークに関する用語を理解している。 【思】10進数の構成から、2進数と16進数の構成を説明できる。基本論理回路を用いた応用回路について、論理的に考察できる。 【主】論理回路の特徴や利用、コンピュータの構成やネットワークに使用する機器やプロトコルに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。
8	1章 産業社会と情報技術	3	【知】情報に関する用語を理解している。 【思】情報化社会におけるモラル、セキュリティ管理について具体的に考えている。 【主】コンピュータの特徴・利用や情報化社会の権利とモラル、情報セキュリティと対策などに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。
	【前期期末考査】	1	
9	2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 9章 情報技術の活用	3 3	【知】各種装置の特徴などについての知識を身に付けている。アナログ情報のデジタル化について理解している。 【思】OSとハードウェア、ソフトウェアの関係が考察できる。目的に応じたマルチメディアコンテンツや機器を選択できる。 【主】ソフトウェアやマルチメディアに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。
10 11	3章 プログラミングの基礎 5章 Cによるプログラミング	6 10	【知】基本的なプログラムを作成し、実行する技術を習得している。四則計算・選択処理・繰り返し処理プログラムを作成する技術を身に付けている。
	【後期中間考査】	1	コンピュータ制御に関する用語を理解している。模擬問題に対し適切な答えを求めることができる。
12 1	8章 コンピュータ制御 検定へ向けての実践問題	4 8	【思】プログラムを記述するために必要なアルゴリズムを考え、流れ図として表現できる。プログラムを読み、出力結果を考察できる。
2	【学年末考査】	1	身のまわりの機器がコンピュータ制御されていることを知り、どのような制御を行っているか説明できる。
3	プログラミングの実践	8	【主】アルゴリズム・流れ図・プログラムやコンピュータ制御や組込み技術などに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 検定試験合格に向け主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1学年	工業（建築）	建築構造	-	必履修・ 必修 ・選択	3
科目の目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書（出版社）	工業 714 建築構造（実教出版）	副教材（出版社）			
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技能が身に付いている。
思考・判断・表現	建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者としての科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力が身に付いている。
主体的に学習に取り組む態度	安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価方法

評価方法 \ 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	○	○	
課題や授業への取組	○	○	○
課題等の提出状況		○	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 建築構造のあらまし 1 建築構造の歴史的発達 2 建築構造のなりたち 3 建築構造の分類	16	【知】 建築構造の基礎的な知識を身に付け、身近な建築物や歴史的建築物が関わる社会的環境や意義について理解している。 【思】 建築構造の基礎的な知識をもとに、身近な建築物を観察し、それぞれのなりたちや分類について思考・判断できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。
5	4 建築物に働く力 5 関連する法規と規準		【主】 建築構造の基礎的な知識や技能の習得に向けて粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
6	前期中間考査		
7	第2章 木構造 1 構造の特徴と構造形式 2 木材 3 木材の接合	30	【知】 木構造のうち、おもに在来軸組構法の構造形式や構成部材、および木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識を習得し、木構造に関する諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。
8	4 基礎 5 軸組 6 小屋組 7 床組 8 階段 9 外部仕上げ 10 内部仕上げ		【思】 木構造のうち、おもに在来軸組構法の構造形式や構成部材、および木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識をもとに、構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。
9	11 木造枠組壁構法		【主】 木構造のうち、おもに在来軸組構法の構造形式や構成部材、および木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。
10	前期末考査		
11	第3章 鉄筋コンクリート構造 1 構造の特徴と構造形式 2 鉄筋 3 コンクリート 4 基礎 5 躯体 6 仕上げ 7 壁式構造	22	【知】 鉄筋コンクリート構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識を習得し、鉄筋コンクリート構造に関する諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 【思】 鉄筋コンクリート構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識をもとに、構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。
12	8 プレストレストコンクリート構造		【主】 鉄筋コンクリート構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。
1	後期中間考査		
2	第4章 鋼構造 1 構造の特徴と構造形式 2 鋼と鋼材 3 鋼材の接合 4 基礎と柱脚 5 骨組 6 仕上げ 7 軽量鋼構造と鋼管構造	22	【知】 鋼構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識を習得し、鋼構造に関する諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 【思】 鋼構造のうち、おもにラーメン構造に関する基礎的な知識をもとに、構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。
3	後期末考査		
4	第5章 合成構造 1 構造のあらまし 2 鉄骨鉄筋コンクリート構造 3 コンクリート充填鋼管構造	15	【知】 合成構造に関する基礎的な知識を習得し、技術や技能の概要を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 【思】 合成構造に関する基礎的な知識をもとに、構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。 【主】 合成構造の構造形式や鋼製部材、および合成構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組もうとしている。